

書

心越和尚

制作年：江戸後期

サイズ：31.5×57.6cm

材質：紙本墨書

所蔵：中津市木村記念美術館



本文：「野 華手口色/幽口少風/聲」

画面左：墨書「心越書」

「□□」(白文方印)

箱書：表「心越和尚」

裏「心越禪師明国抗州ノ人也 延宝年中帰化水戸義公請而開山祇園寺雲華大含珍愛ノ口ナリ」

1996(平成8)年に中津市に寄贈

心越(しんえつ、寛永16(1639)～元禄8(1695))は、江戸時代に来朝した中国明代の禅僧で、曹洞宗寿昌派の祖にあたります。杭州金華府浦陽に生まれ、俗姓は蔣氏、初名は兆隠、樵雲・越道人とも名乗りました。8歳で仏門に入り、延宝5(1677)年に来朝します。長崎の興福寺を中心に布教し、のちに水戸天徳寺に入り、かの地で没しました。金沢八景の命名者としても知られ、詩書画・篆刻にも長じていたとされます。